村政功労者
「阿部基金」の阿部さん父子らを表彰

村は昭和三十八年、岩室村表彰条例を定め、村のために特別の功労があったものを表彰し、この功労を称えるとともに、村の発展興隆に資することを目的として、三十九年より毎年表彰してきた。

今年も五月三日、役場会議室で自治功労者表彰式を行なった。被表彰者は次のとおり。

。阿部作市（東京、金額二五万円寄附）
阿部大二郎（東京、二五万円寄附）
田中比古一（橋本、徳行者）
坂田雄平（農業委員勤続十六年八ケ月）

阿部作市、大二郎さん父子は間小の『阿部基金』の出資者で毎年一度は学校を訪れ、後輩の成長ぶりをあたたかくみまもっている。

作市さんは昭和四十二年度にも徳行者として表彰を受けている。

田中比古一さんは県道路補修員としてツルハシ握って三十一年、労苦がむくわれて総理府より勲七等瑞宝章叙勲、その後も村内の県道補修にツルハシを握っている。

坂田　雄平

阿部　作市

田中比古一

阿部大二郎

第一期工事完成
樋曾地内　矢川排水路工事

昨年暮から進められてきた樋曾地内の矢川改修県営工事が完成した。

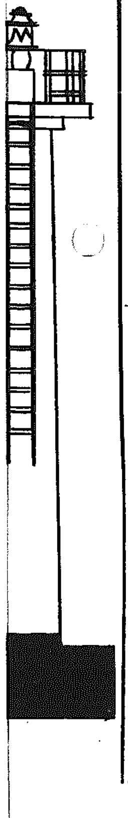
昭和四十一年樋曾山ずい道が完成、矢川の排水能力が、毎秒十一トンから五八トンに増加してから、いつ水の心配も少なくなったが危険個所もまったくなくなったわけではない。

昨年十二月に着工した第一期工事区域は樋曾地内四百六一メートルを川底をさげ川幅を広げようというもの全線の川底を一・五メートル前後ずつ下げ、川幅も広いところで十メートル近くも拡幅した。

更に水の流れによる浸食を避けるため、川底の両側に矢板を打って根止めすると共に橋の新設、水田から矢川に水を落す一、二ケ所の排水樋管も整備された。

瀬間港に灯台設置きまる

横山村長らは一月二十二日上京、海上保安庁をたずね



よい子の鼓笛隊パレード
交通安全を願って街々へ＝和小

「みんなのねがい交通安全」ことし春の交通安全旬間は五月十一日〜二十日まで実施された。村の街角では、正しい交通の指導が行なわれた。

旬間の始まる四月、和小の鼓笛隊は和納の街を演奏交通安全パレードを行ない村民にPRした。

これはPTA、和納農協から、よい子へプレゼントとして楽器をおくられたもので一ヶ月間の練習をつんだ。早速同校では、その披露とお礼を兼ね、併せて交通安全教育の一環として、パレードを行なった。

お得意の「希望の虹」「君が代行進曲」などを披露よい子の演奏をみようと集まった村人らの拍手をあびて「みんなのねがい交通安全」を広めた。

みんなのねがい
交通安全

村長雑感
横山喜八郎

田植えも終り、全村新緑と化しさわやかな初夏を満喫する時節となりましたものの、早くも水不足の予報が聞かれる今日農村岩室としては之等の対策に迫られて居る。

扨て去る十四日を最後に本村に関連する国県の事業普及補助費の大綱が決定されましたが、総額一億七千五百万円と昨年比二五％増額を見ましたが、特に注目されるのは国県費が稍々半々であったものが、本年度は三％が県費で残りが全部国費であると云う事であります。従って村費の負担も大巾に減少し、今後の行政に大きな貢献を為すものであり比へては今後考究される村民税の軽減等直接村民各位への奉仕につながる問題であります。

特に地元選出国県会議員先生方の御協力と関係当局の暖い御理解の賜と心からなる敬意を表するものであります。

これ等も常に村民各位の新村建設の意欲に燃え愛村の至情巳み難き御努力の賜であります。

然も今や我が岩室村に寄せられて居る村内外の大きな期待の中に、ひたすら前進の旗を掲げ融和を求め、近い将来を現実の基盤に立って展望する其の素因を探究する大きな使命のある事も忘れてはならないと思います。

三五九柱を祀る招魂祭
三地区合同の大式典
岩中体育館で

いままで、岩室、和納の地区別に実施していました招魂祭を今年より全村合同で行なうことになりました国のためにつくして亡くなられた方々に厚く感謝いたしましょう。

招魂祭式典要領

一、日時　六月二十一日午前十時五十分
二、場所　岩室中学校体育館
三、日程　午前十時五十分〜十一時四十分式典
午前十一時五十分〜直会（宴会）正午から演芸（概ね二時間）午後二時終宴（散会）
四、歓送迎（バス運行）計画
(1)間瀬地区　往路午前八時五十分〜十時（二往復）帰路午後二時三十分〜一回、中学校〜漁協前
(2)和納地区　往路午前十時〜十時四十分（二往復）帰路午後二時〜一回中学校〜八幡社

お知らせ

ゴミを出すときは，しっかりと包装して

1.ゴミの水切
2.ゴミの容器は決められた場所に出す
3.ダンボール等で出される場合は，しっかりと包装して出す。
4.収集が済んだら早めに容器を持ち帰る。
5.容器はいつもきれいに
6.ゴミはできるだけ，ポリ袋に入れ容器に入れる。
7.交通の防害とならぬよう道路の端に出す。
8.犬の放し飼をやめて下さい。
9.川河へゴミを捨てぬよう。
10.危険物は危険物だけ包装して出す。
※ゴミ収集のポリ袋は1組50枚の125円役場，社会福祉課にあります。

鉄道にいたずらするな　事故防止に協力を

国鉄では，5月15日から6月10日まで「**鉄道妨害防止運動**」を実施しています。国鉄新潟支社管内の昨年度の死者は44人も出ています。事故を防ぐために，皆さんは次のことは必ず守って下さい。

①線路上に物を置かない
②駅構内，線路沿いにある機械，建物にさわらない
③踏切では必ず一旦停止し，左右の安全を確かめてから渡る
。妨害事故の犯人は罪に問われることはもちろんその損害を賠償してもらうことになっています。（岩室駅）

ホンとにあったのか両墓制
全国で二カ所のめずらしい風習
海村民俗学の宝庫〝間瀬〟

弥彦スカイライン、海岸道路の建設によって将来大きく発展して行くと思われる間瀬——同地区は、純漁村として時をきざんできたが、民俗学的に貴重な、風習、言葉が残っており研究者の注目のマトとなっている。これらの学問上貴重なものが、生活の変化と共に滅びそして忘れられていく、民俗学の権威柳田国男を中心に昭和十四年、間瀬村において、漁村生活調査が行こなわれ、戦争のため中断されたが、昭和二十四年、間瀬村の風習等が全国に発表された。特に大きな反響をまきおこしたのは両墓制の風習であった。これは、墓には死者を葬ったところと、単に盆、正月や命日に詣るためのいわば、祭地にすぎないものと墓が二つあったと発表された。このことがいまでも、全国民に知れているが、最近、そんな風習はなかったとゆう村人と死んだジイさんからそんな話を聞いたこともあるとゆう老人もあり、真実のほどは判明していない。

戦前昭和十二年から十四年まで、柳田国男を中心に全国の漁村生活の研究調査が行こなわれた。特に間瀬は綿密な調査がなされた。

調査項目は、操舟作法—古くから守られている出船や船のつけ方村の組織—組の分け方と仕事、地域集団、同族集団等、約一〇〇項目によって調査された。特に全国的にめずらしい風習として、発表された両墓制については、全国の注目のマトとなった。

間瀬では以前（いつ頃か不明）人が死亡した場合、埋葬する場所は新村と高屋（地名）の間の小丘、松林の中で、家々の持場が決まっているのではなく、どこへでも勝手に埋めた。埋めたあとには、岩を積み小さな木を挿しておく程度で、あとは恐れて近寄らぬほどであったから埋めた場所などは、三、四年もすると、判からなくなった。おがむ場所はお寺の境内にあってそこには先祖代々の墓というのが一つ建ててあって、毎年、命日、盆等にはそこへ詣ったという風習を調査後十数年過た戦後の動乱期の二十四年「海村生活の研究」と題して出版された。

この両墓制は、日本人が死者と肉体、霊魂とに持っていた考え方の相違を示すよい資料であると言われた。この風習は、愛知県佐久島にしか明確に確認されていない。しかし現在、間瀬住民はこの習慣を聞いてもそんなことはなかったとゆう住民が多い。しかし全国の人々は間瀬に両墓制があったと記憶されている。

これらの真実を究明するには多くの労力が必要とされるであろう。中学生によるクラブ活動調査によって研究されることを期待されている。

漁場は海岸から、三里（一二km）の間をナギサといって、村民一般の漁場で三里から、先の外海をタラバとよんで、タラバ株主とよばれる人の外漁業はできなかった。とれた魚は家族構成、年令によって分配された。その結果、一時他町村から養子をもらうことが流行したと言われる。

現在の青年団の組織的なものに、若宿、娘組と称する団体等の漁村独特の習慣があった。

埋もれているこれらのことは、少しづつ研究されている。中央高校、村松高校によって、村の組織、言葉づかいが研究され出版されている。

郷土の偉人、本間俊平の遺蔵本の中にも、これに関する書籍を見い出すことができる。

晩年の俊平翁も間瀬のめずらしい風習を研究しようとしたのではないかと思われる。いつかこれらの風習が正しく理解され、村民の前に現らわれることだろう。

善意ありがとう

成田イソさん（横曾根）は孫さん岩小生三年友二君の友達がいつもきれいな教室で勉強できるようにと、ぞうきん一六〇枚をおくりました。

堀越君「青年の船」に乗船決定
東南アジア七ケ国訪問

政府は明治百年を記念しての「青年の船」船団員名簿を発表した。

新潟県代表五名の中に、堀越誠君21才（北野、堀越千代松さん長男）が選らばれた。昨年度の長谷川秀雄君につづいて二人目。

九月二十七日出発、中華民国、フィリッピン、タイ等の東南アジア七ケ国を訪問し、各国青年と交歓、日本文化の紹介、国際的視野を広め、国際協力の精神を涵養し、青年に日本の姿を正しく理解させ、次代をせおう、中堅青年の育成を図ることを目的として研修、十月二十日帰国する。

がんばれ!!堀越君

商工会永年勤続者を表彰
20年以上久保田春男　佐藤国三郎さんら

岩室村商工会は五月八日役場会議室で通常総会を開催、役員改選、今年度事業報告等を審議、総会に引き続いて、村内事業所永年勤続従業員を表彰した。

新役員
会　長　五十嵐寛一郎
副会長　堀井　正雄
、　　　成田　豊吉
専　務　竹内　正雄

永年勤続者表彰者

20年以上
久保田春男（本間屋店）
佐藤国三郎（角屋）
15年以上
田中富士江（佐藤造花製作所）
10年以上
村井　ミイ（袋屋仕出店）
樋口ヨシノ（竹縄商店）
村井　実（角屋）
羽生　温（佐藤畳屋）
5年以上
吉田千代子（角屋）
佐藤キク（佐藤造花製作所）
関本　継男（イワセ産業）
中田　ムツ（㈱三富商店）
松山　和子（〃）
阿部　アキ（〃）
富沢江美子（丸木製パン所）
浅田　清作（佐野商店）
田島キヨイ　田島　千栄
本田　サキ　海津　正一
伊藤　一子　鈴木　スイ（堀井仏壇店）